1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703667
法人名	有限会社　精祥
事業所名	グループホーム　のぞみ
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区陣原3丁目25番1号 (電　話) 093－621－1002

評価機関名	株式会社　アーバン･マトリックス　評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4－6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年6月30日	評価確定日	平成21年8月22日

【情報提供票より】(平成21年6月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16　人	常勤　12人，非常勤　4人，常勤換算　8．0人

(2) 建物概要

建物構造	RC造り
	3階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000円		その他の経費 (月額)	水道光熱費(11,000円)
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,400円			

(4) 利用者の概要 (6月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4	名	要介護2	4	名
要介護3	8	名	要介護4	2	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	86 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東築病院／正和中央病院／青山中央病院／もりた医院／たかむら歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年目をむかえるグループホームのぞみは、ＪＲ陣の原駅より徒歩3分の利便性が高い立地条件を備え、商業施設なども多く、街なかの環境を有している。3階建ての1階部分に位置し、1階の一部分と2･3階は、同法人が運営する介護付有料老人ホームとなっている。施設全体行事として行なわれる夏祭りは、多数の地域住民･ボランティアの参加により毎年大規模に開催されており、地域に開かれた事業所として積極的に交流が行なわれている。昨年、入居者本位のサービスの提供のために、配食サービスから入居者･職員による手づくり料理に変更が行なわれ、食材の買い物も入居者と共に行なっている。調理時間には包丁の音、料理の匂い等により生活感があふれ、また入居者の能力を発揮できる場面にもなっている。家族会との連携により更に質の向上を目指し、理念に基づいた運営に向けて取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4) 前回の評価では、運営推進会議の定期的な開催が課題となっていた。今年度は、ホームの現状を理解していただく機会として、また、情報を発信する場として活かし、定期的な開催となっている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 職員はスタッフ会議において、外部評価の意義を理解できるように取り組み、自己評価は、管理者が中心となって、日々のケアやサービスを振り返り作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6) 運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回開催している。地域の情報を把握し参加できる活動の情報収集やホームの現状の情報発信など、会議を積極的に活かしている。今後は、地域包括支援センターの協力などにより、認知症の理解を高めるなどテーマを設定し取り組んでいきたいと考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映 (関連項目：外部8，9) 定期的に家族会を開催し、家族だけで話し合う機会や家族と職員が話し合うなど、家族の率直な思いや意見･苦情を言っていただける機会として活かし、出された意見や苦情は、真摯に受けとめ、ホームとして運営面での改善など、積極的に活かしていくように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 自治会に加入している。施設の夏祭りには地域住民が多数参加し、盛況に開催されている。可能な限り地域行事 (陣原歩こう会･地域清掃･独居老人の集い･防火訓練･祭り等) には入居者とともに参加し、交流を深めている。施設行事には多彩なボランティアの協力があり、地域に開かれた事業所の取り組みがある。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「1.利用者の尊厳と人間性を尊重する　2.利用者と職員が共に育ち合う環境をつくる　3.地域社会と密着した施設をつくる　4.利用者の満足を喜びとし、常にサービスの向上を目指す」を掲げ、ホームとして理念を基に方針を定めている。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝礼時に唱和し、会議等にて実践に向けた話し合いが行われている。理念に基づいた職員心得を具体的に示し、日々の支援の場面で、実践に向けて取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。施設の夏祭りには地域住民が多数参加し、盛況に開催されている。可能な限り地域行事（陣原歩こう会・地域清掃・独居老人の集い・防火訓練・祭り等）には入居者とともに参加し、交流を深めている。施設行事には多彩なボランティアの協力があり、地域に開かれた事業所の取り組みがある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価以降、運営推進会議の定期開催が行なわれるようになり、特に地域との情報交換の場としてサービスの向上に活かされている。外部評価については会議の場で説明を行い、職員への周知を図っている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期開催している。地域の情報を把握し、参加できる活動の情報収集やホームの現状の情報発信など、地域行事への参加窓口としても会議を積極的に活かしている。今後は、地域包括支援センターの協力などにより、認知症の理解を高めるなどテーマを設定し取り組んでいきたいと考えている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム行事の際には、八幡西区役所を通じてボランティアを紹介してもらうなど、行政との情報交換を積極的に図っている。また、平成20年10月より介護相談員を受け入れている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度についてのパンフレットを用意し、利用の際には説明できるように取り組んでいる。行政が主催する権利擁護の研修に参加計画がある。今後は、更に職員の理解を高め、必要な場合には活用できるように、支援していきたいと考えている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会が多く、その都度、入居者の状況を報告している。毎月、金銭管理の報告を郵送する際に、入居者の写真なども送付している。状態変化がある際には、随時連絡している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、家族だけで話し合う機会や家族と職員が話し合うなど、家族の率直な思いや意見を聴くための機会として活かしている。出された意見や苦情は、真摯に受けとめ、ホームとして運営面での改善などに積極的に活かしていくように努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は担当制を導入しているので、離職などの際には、入居者の状況に応じて説明を行い、ダメージを防ぎ、気分を変えるためにレクリエーションを工夫するなど、入居者の気持ちが落ち込まないように支援している。		
5．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢などを理由として、採用対象から排除しないようにしている。職員のスキルアップを図るために研修に力を入れたいと考えており、今後は充実を図っていく方針である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	基本理念に基づいた人権教育が朝礼等で行われ、意識付けに努めている。入居者に対する人権を尊重したケアを実践するために、職員の対応に問題がある場合は、管理者により即時指導するように努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で定期的に勉強会を開催し、参加を促している。職員がそれぞれの役割を担うために、4つの委員会(レク・調理・安全・環境)を設置し、職員の能力が発揮できるように取り組んでいる。研修を受ける機会の更なる充実を、今後の課題としている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との管理者間での交流や、情報交換が行われている。草の根ネットワークや、福岡県グループホーム協議会主催の研修会等に参加している。今後は地域において、ネットワーク形成を目的とした連携が求められる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	信頼関係を築いていくために、入居者の家庭を訪問するなど、なじみの関係に配慮しながら、体験入居などを行い、安心して入居できるように取り組んでいる。入居前にデイサービスを利用している場合は、デイサービスの事業所に入居者の状態を確認するなど、入居者の情報把握に努め支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	特に若い職員は、梅干し作りやプランターでの野菜づくり等の際には、入居者に暮らしの智恵を習うことが多い。日々の暮らしの中で、入居者が笑顔で過ごせるよう、共に支えあう感情を大切にしながら取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのコミュニケーションを大切にし、希望や意向に可能な限り対応できるよう支援している。思いや意向については、支援経過に記録し、職員間での把握と共有に努めている。	○	家族等の協力により、生活歴等をより深くアセスメントする事で、本人の全体像に更に近づき、本人本位のよりよい暮らしへの支援に活かしていくことが求められる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当職員制により、介護計画作成時には担当者との話し合いが行なわれている。本人・家族の意向を大切にした計画作成に努めている。	○	担当者の記録は個別性があり、日々の支援を窺い知ることができる。週間計画の予定表に、個別性を追加することにより、家族にも理解しやすい介護計画となり、更に本人本位の支援にもつながると考えます。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員が一ヶ月の目標を掲げ、日々のケアやサービスの実施状況がわかる課題表を作成し、モニタリングを実施している。課題表チェックにより、入居者の状態に応じた介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設する介護付有料老人ホームとの合同行事（夏祭り・餅つき大会など）があり、ボランティア等の協力により盛大に開催され、地域との交流の機会としても活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を優先した、かかりつけ医の受診を支援している。特に意向がない場合は、ホームの提携医が主治医となり、24時間のサポート体制を築いている。訪問歯科医は週1回の訪問があり、適切な医療が受けられるように取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、家族や主治医との話し合いを重ねながら、ホームで出来る限りの事を支援していきたいと考えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別のファイルは鍵をかけ保管･管理している。言葉かけや対応は、その時、その場で職員に問題点を注意し、現場での対応力を高めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はゆっくりと寝ていたい方など、それぞれのライフスタイルを尊重し、これまでの生活リズムにそった暮らしができるように取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や状況により、食材の買い物や野菜の皮むき等の下ごしらえ、茶碗拭き等を職員と共に行っている。個々の生活習慣により、食事の時間にも柔軟に対応している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本としており、体調とタイミングに配慮しながら、柔軟に対応している。併設施設の特殊浴槽も活用している。気持ちよく入浴できるような支援を心がけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯、衣類干しなどを職員と共に行なっている。庭には腰の高さ程のプランターがあり、車椅子の方でも菜園作りに参加できるよう、工夫がなされている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に行く方や、食材の買い物に行く方等、希望に応じて支援している。月2回はドライブや外食の機会を設け、季節感を感じられるように工夫しながら支援している。重度化されている方の外出支援について，検討課題となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャイムが設置され、鍵をかけないケアを実践している。玄関横に事務室があり、入居者や来訪者の把握がしやすい作りとなっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域で実施されている、陣原地区大規模消防訓練に入居者とともに参加している。運営推進会議を通じて災害時の協力を依頼している。またホームを災害時の避難場所として、地域に提案している。		
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設のメニューを参考に、家庭的な料理を基本として、食材の買い物から職員が担当している。食事・水分摂取量を記録し、個々の状況を把握している。食事形態もそれぞれに状態に合わせて、配慮している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間は扉を開けると回廊となり、ウッドデッキから中庭に通じており開放的な作りとなっている。対面式キッチンからは居間や食堂を見渡すことができ、見守りをしながら入居者との会話を楽しんでいる。壁には入居者の趣味を活かした作品が飾られている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや箪笥、鏡台等の使いなれた家具類や、家族の写真、仏壇等、大切な物が置かれている。電話やテレビを持ち込んでいる方もおり、夕食後にテレビを楽しんだり、家族と電話しながらゆっくりとした時間を過ごせる場所となっている。それぞれの暮らし方に合わせた、居心地の良い空間となっている。		